

# 中部人懇通信 No.2

幼児教育  
関係者対象

「中部人懇」は「中部地区人権教育懇談会」を略した名称です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進をはかることを目的に1971年（昭和46年）に発足しました。本会の取組は同和問題をはじめとするあらゆる人権問題について語り合うことで、中部全体の人権意識の高まりを生み出してきました。今年度は幼児教育関係者、学校の教職員、市町行政職員、PTA関係者を対象に4回の研修を予定しています。

「中部人懇」って  
こんな会です！



令和3年9月21日（火）、保育所（園）・認定こども園等の先生方を対象として、第3回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

【講義】「人との関わりの中で人権を大切にできる心を育てる

～『無意識の偏見』の扱い方を考えよう～

公益社団法人鳥取県人権文化センター

次長兼上席専任研究員 尾崎 真理子 氏

（主な内容）

日常に潜む“取扱注意”の偏見（バイアス）

（1）バイアスその1「確認バイアス」

「確認バイアス」とは、すでに持っている自分の思い込みや考えに合う情報を優先して記憶し、合わない情報を無視・軽視すること。あるカテゴリーに含まれる人には、共通して特定の特征があるという思い込みが確認バイアスによってさらに強化されることがある。

（2）バイアスその2「内集団/外集団」

「内集団」とは、自分と同一視し、所属感を抱いている集団。

例えば、自分の職場、町内会、趣味のサークル、ボランティア団体など

「外集団」とは、他者と感じられる集団。競争心、対立感、敵意などの対象となる。

例えば、自分とは違う「年代」「県外の人」など

自分が所属している集団を高く評価し、有利に扱ってしまう意識が私たちにないだろうか。また、外集団の人たちを劣っていると考え、排他的になることはないか。自分自身を振り返って考えてみてほしい。

（3）バイアスその3「公正世界仮説」

「公正世界仮説」とは、「この世の中は公正にできており、ちゃんと生きていけば悪いことは起きない」という思い込み。この思い込みが強いと、社会の少数者（女性、障がいのある人、外国人など）が感じている世の中の不公正さや生きづらさに共感しにくい。また、少数者が差別を訴えても、「文句が多い」「本人の責任」などと思いがち。

バイアスに絡め取られないために・・・

バイアスを全てなくすことは不可能だと自覚し、バイアスについて正しく知り、自分の言動を振り返る習慣をつけることが大切。

【参加者の感想より】

○バイアスは、全てなくすことは不可能だから、日々の言動にチェックをする習慣をつけるというのが、個人にできることであり、指摘し合う職場になるよう努めたい。

○気づかないうちに、してしまっている偏見があるかなと思った。日々、立ち止まり考えていく必要があると感じた。

○全てのバイアスをなくすことは不可能だが、指摘し合ったり、自分自身も受け止めたりし、もう一度立ち止まって考えられるようにしていきたい。

私たちの姿を子どもたちは、見ています。ぜひ、各園で研修を深め、実践につなげていただきたいと思います。

